鉄砲洲神社素読論語　解説

（平成 24 年 6 月 22 日）

【一四】子曰く、由の瑟、奚為れぞ丘の門に於てせんと。門人　子路を敬せず。子曰く、由や　堂に升れり。未だ室に入らざるなりと。

孔子が言うには、子路が琴を弾くけども、門人は子路を敬おうとはしない。子路は下手ではあるけど堂には登っている。しかし、まだ奥の座敷には入らないだけだ。まだ上手にはいかないけれども、他の弟子達よりは遥かに上だと言っています。

【一五】子貢問う、師と商とは孰れか賢れると。子曰く、師や過ぎたり。商や及ばずと。曰く、然らば則ち師は愈れるかと。子曰く、過ぎたるは猶及ばざるがごとしと。

師は子張、商は子夏。子貢が「子張と子夏はどちらが勝っているか」と質問しました。孔子は「子張はやりすぎで、子夏はたりない。」子貢がさらに質問を重ねて「それならば、やりすぎの方がよろしいのでしょうか」と孔子に聞きました。

渋沢栄一の論語講義の中に、家康がこれについてこう言われたというものが出ていました。

「及ばざるは過ぎたるにまされり」と云う事を言っています。及ばない方が良い、やり過ぎるというのは、取り返しがつかないけれども、足らないのは後からどうにでも出来る。

解釈が良いと思います。孔子の答えは、この渋沢さんの例えは皆さんが奥さんに大輪の花束をあげ素晴らしいと褒め称えました。普段やらない様な事をしてもち上げたら、奥さんは何か魂胆があるのではないかと感じます。やり過ぎると逆に疑惑の眼差しになりますが、ほどほどの花一輪を持って行くと、まだ不足だけれどもこれぐらいが無難かと奥様はかえって喜ぶのではないでしょうか。花をあげる時にあまり過大な物をあげるより、程々が良いのでしょう。余分な事でした。

【一六】季氏　周公よりも富めり。而るを求や之が為に聚斂して、之に附益す。子曰く、吾が徒に非ざるなり。少子　鼓を鳴らして之を攻めて可なりと。

魯の大夫の季氏が周公よりも財産家である。孔子の弟子で季氏の家来になった冉求が重税を国民にかけて、季氏の私有財産を増やした。孔子が「これでは私の弟子でとは言えない、やり過ぎだ。太鼓を鳴らして、もう孔子の弟子では無いと言いふらしても構わない」という風に言いました。少子は、他の弟子の皆々です。

私腹を肥やすと色々と問題が発生するし、やり過ぎはよくないと、ここでは捉えます。